

◆ 総合礼式の龍柱（伏龍式）

前回までは、木造一般住宅の上棟式と鉄骨・鉄筋の上棟式について、そして社寺仏閣の上棟式の一例、公共大形物件の上棟式の一例をご紹介します。

今回は社寺建築及び特殊な建築の場合に行っております、総合礼式の龍柱（伏龍式）についてご紹介いたします。

総合礼式の龍柱とは、地曳・伏龍・鉦始・清鉦・立柱・上棟の礼式を一つに総合して行う礼式です。



伏龍式の実施例

通算 第22回

未来に伝えたい 日本建築伝統儀式

田子式規矩法大和流六代目 棟梁 田子 和則



伏龍式の実施例

正式には地鎮祭、水盛が済んだ後、次に立柱礼式（龍柱を立てる）をするのが順序であります。

また、春夏秋冬によつて柱を立てる位置が異なるのが正式で、春は東、夏は南、秋は西、冬は北へ立てるのが正しいとされていますが、略式として屋敷の丑寅の隅（東北の間＝表鬼門のこと）であれば四季に関わらず立ててよろしいので、私の場合は表鬼門に一本立柱（龍柱）を立て、総合的に昔の資料・文献や、故西岡棟梁 五代目田子光一郎（父親）からの伝承と、その他あらゆる情報を収集し、研究して儀式の意味と流れを再現した

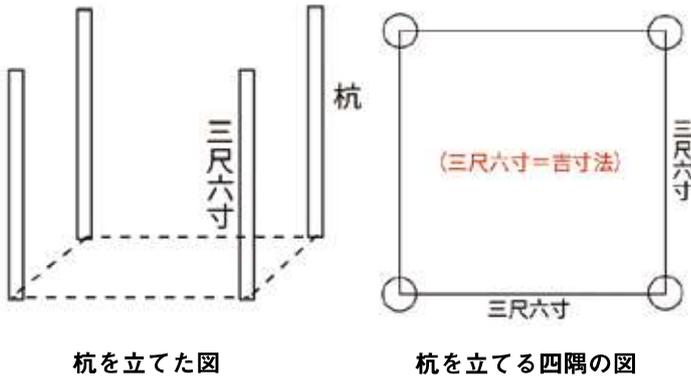
のが、略式ではありますが総合礼式 柱立ての儀（龍柱）伏龍式であります。

30年間、私なりに再現して執り行っておりまして、その時には儀式の再現に複数の大工の方々の手伝って頂かねばならず、宮大工古式伝統保存会を作り保存させて頂いて居ります。今回数多くの皆さんから、特に伏龍式については、さちんと伝え残してほしいとの声が上がリ、保存会会長として自分で研究し執り行ってきた儀式の思いと流れについて、ご紹介させて頂きたいと思っております。

最初にお断り申し上げますが、前段申し上げました通り、私が伝統儀式である伏龍式の保存のために、あらゆる文献を調べ、また、諸先輩棟梁にご指導賜って再現したものですので、この点ご理解頂きたくお願い申し上げます。まずは儀式に使う杭、礎石、龍柱、三本の幣束、破魔弓、破魔矢、三玉女星神への供え物などの作り方と意味を説明申し上げた上で、実際の儀式の式次第に則りご説明いたします。

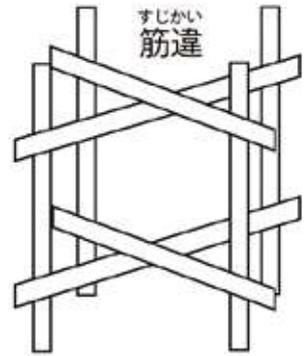
◆ 龍柱を支える杭の立て方

第一に龍柱を支える杭を四隅に立てます。杭は荒木を用いるのが正しく、四角の地の間の寸法は三尺六寸といたします。そして杭の長さについても地上三尺六寸とします。これは地の三十六禽にかたど象り、地の生気を祀るためです。筋違を入れることは龍柱を支える支点を作る為でもありますが、また五行星の巡環に象つて、天地



杭を立てた図

杭を立てる四隅の図

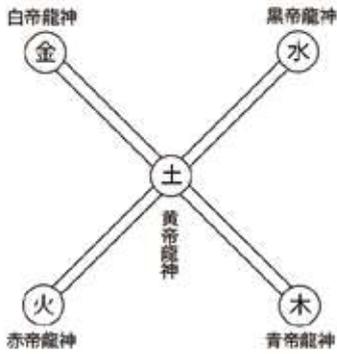


筋違を入れた図

の生気を受けるために祀るのでありますから、これらの杭の名を『五龍杭』と称します。なお生氣とは恵みと助けのことを言います。

参考までに五行星神についてご説明いたします。

◆ 五行星神



五行星配置の図

木曜星神とは 青帝龍神で日本の具々廻知命(木霊の神) 東方守護神

◆ 柱石の据え方

火曜星神とは 赤帝龍神で日本の火結命(火の神) 南方守護神
土曜星神とは 黄帝龍神で日本の埴安姫命(土の神) 中央守護神
金曜星神とは 白帝龍神で日本の金山彦命(金の神) 西方守護神
水曜星神とは 黒帝龍神で日本の水波女命(水の神) 北方守護神

龍柱を立てる下には柱石を据えます。これは伏龍式の略式の仕方であります。

柱石(地行石)の据え方は、棟梁が龍柱の収まる五龍杭の位置を確認して、二礼・二拍手にて仮に



杭と柱石を据えた実施例

据えておきます。

そして儀式の流れの中で司会者が『礎の儀』と進行の合図を発するとともに、脇棟梁が祭壇に備えてある祝い槌を両手で持ち、一礼をして棟梁にお渡しいたします。棟梁は有難く頂戴して、龍柱を立てる位置に仮置きしてある地行石の前まで進み、予め地行石の前に奠座を敷いて置き、棟梁は一礼をして槌を右脇に置いて正座をします。

地行石の据え方は、まず二礼・二拍手・一拝にて拝礼し、一の槌で「天」と唱え石を打ち据えます。二の槌は「地」と唱え石を打ち据えます。そして三の槌で「人」と唱え石を打ち据えます。これは天地人の三才、日本建築の三神、三玉女星神を象つたものです。

その後、棟梁が「柱礎 万々歳 敷地安全 長久栄昌 守護」と小声で唱え、次に祭壇より「星」の字を書いた半紙を受け取り、地行石の上に乗せます。これには龍柱を据え付ける敷地の土を、星下の土(穢れのない土)とする、という意味があります。

次回は龍柱の作り方についてご説明申し上げます。

■ 総合礼式の龍柱（伏龍式）
その二

前回は、龍柱を支える杭の立て方や柱石の据え方など『礎の儀』についてご説明申し上げました。今回は『柱立ての儀』即ち柱立てをする儀式でございますが、まずはその柱を作る方法からご説明申し上げます

◆ 柱建ての儀

まず最初に、養生をした枕木の上に柱を乗せ、作るべき用材を図1のように置きます。その後、「墨打ちの儀」「鉦始めの儀」「鉦かけの儀」の3つの儀を執り行います。

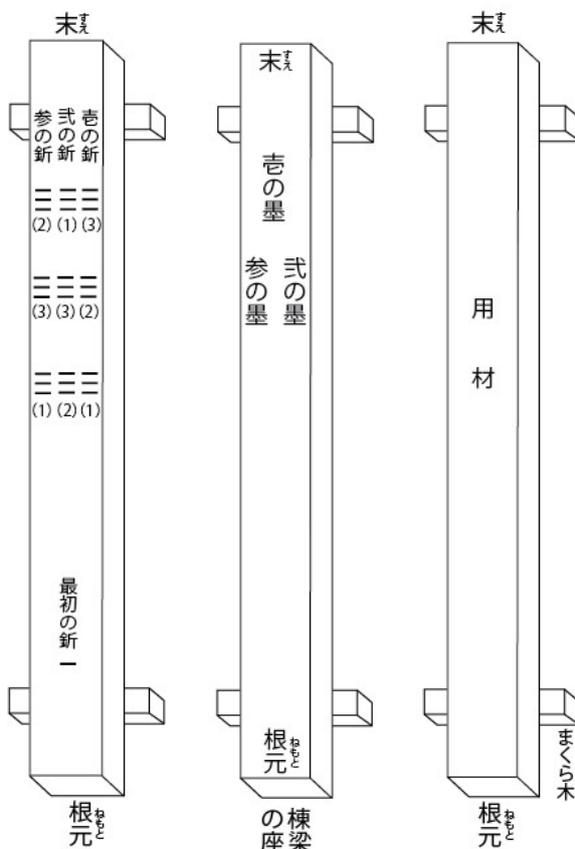
一・墨打ちの儀

図2のように墨を打ちます。棟梁が柱の根元にて指金を立て、柱の芯を見て墨壺から墨糸をくり出し、弟子が末に引き、芯に合わせて、棟梁が墨糸をピン、ピン、ピンと三度弾いて図のように、式の墨、参の墨と順番に



通算 第23回
未来に伝えたい
日本建築伝統儀式

たご かずのり
田子 和則
田子式規矩法大和流六代目 棟梁



(図3) 鉦始め

(図2) 墨打ち

(図1) 用材

三本の墨をする。これは三弾き三本で3×3＝9となり天地運行の定理、即ち九曜星に象つたものであります。

二・鉦始めの儀

一番初めに、根元の鉦所を一つ打ちます。これは天地根元太極の鉦と云います。鉦打ちは一ヶ所を三の印のしてあるように、一・一・一と、真ん中を始めに中・上・下と軽く打ちます。三の形はの

ように水の流れに象り、火防のまじないとしています。

なお、鉦打ちの順序が上・中・下いろいろの変化のあるのは、天地陰陽の交錯循環の妙理に法つたものであり、鉦打ちの場所が九個所であるのは、九曜星に象り、一か所を三つ打って3×9＝27の数に、太極（根元の鉦）の一つを加えた28の数、即ち天の二十八宿に象つた密法であります。

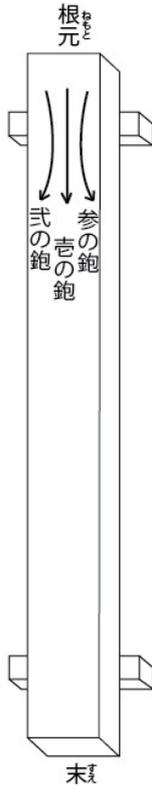
三. 鉤かけの儀

次に鉤かけの儀(清鉤式の略法)をご紹介します。

次の唄を唱えてから鉤をかけ始めます。

「はらひ立つることも高天原なれば、はらひすつるも荒いその浪」

図4のように、根元の所を水ノ字の形に一ヶ所を三度ずつ削ります。それから四面を丁寧削り上



(図4) 鉤かけ



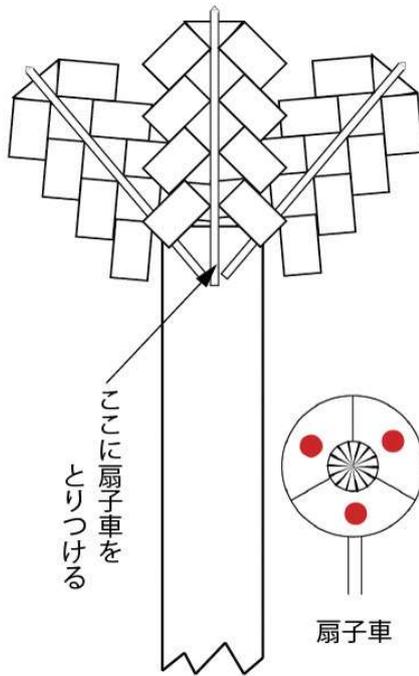
(図5) 四面の文字

げます。そして柱の上下に柄を作ります(龍柱の略礼式)。そして削り上げた柱の四面に図5のように書き入れます。(略式では柄を付けない場合もあります)

注意すべきは、堂宮建築の場合『下津岩根真木柱』を『下津岩根宮柱』と書くのが正しいとされています。書き上がったら、その柱の上端へ図6のように三本の幣束を取り付けます。さらに扇子車を打ち付けますが、扇子車の取り付け方や龍柱の飾りつけは図6を参照してください。



四面の文字を書いた柱



(図6) 幣束の取り付けと扇子車

ここまでの準備が出来た柱を柱置き台の上に置いて、司会者から『柱立ての儀』と発声がありましたら、4名の宮大工が柱を建てる場所まで厳かに運び、棟梁は

礎石の上に白紙に「星」という字を書いた書に乗せて、大工が柱を建てるのを見守り、柱の位置を確認し、棟梁の合図と同時に脇棟梁が柱を柱受けに打ち付けます。



柱立ての儀

今回は、『三玉女星神供え物・形見取付の儀』から『宮大工の寿ぎ』までの儀式についてご説明申し上げます。

■ 総合礼式の龍柱（伏龍式）
その三

前回は『柱立ての儀』即ち柱立てをする儀式と、その柱を作る方法についてご説明いたしました。今回は『柱立ての儀』に続いて、龍柱に飾り付け（供え物）を行う儀式からご説明申し上げます。

◆ 三玉女星神供え物・形見取り付けの儀

前回ご説明いたしましたですが、柱の上端に取り付けました三本の幣束は、三玉女星神を象つたものであります。したがってその三玉女のもてなし物として、女の持ち物、つまり、櫛・笄・紅・白粉・髷・箒 等を供え物として、幣束の串の下端に麻縄で結びつけるのであります（私の場合、女房の使い古した化粧道具を入れた小袋を供え物としています）。

そして柱の中ほどより少し上位の所へ荒縄を用いて結びつけます。これは地曳礼式の形見である



通算 第24回
未来に伝えたい
日本建築伝統儀式

たご かずのり
田子 和則
棟梁 田子式規矩法大和流六代目



全ての取り付けの儀を終えた龍柱

ことごとご理解ください。そして扇子車は円、柱は方、これは天円地方と云って天地自然の理象に象つたものでありまして、三玉女星神を祀るためのものであります。

◆ 破魔弓・破魔矢
取り付けの儀

次に龍柱へ弓と矢を取り付けます。この弓と矢は破魔弓・破魔矢と書くのが正しく、破魔は魔を破ることで、破魔矢を表鬼門に向けて取り付けるのは、一切の不浄悪事災難を打ち破る魔除けのためで、完成まで工事の無事と安全を願い、また出来上がった家には、永久に何の災事も起きないように

祈る暮目の神事であります。破魔矢の作り方や取り付け方は、右の写真を参考にしてください。

このように柱立ての他、三玉女星神の供え物・形見取り付け、破魔弓・破魔矢取り付けが終了したら、その前に祭壇机を置き、その上に白紙を敷き、米・塩・魚・酒・昆布・野菜・果物などを供えるの



三玉女星人供え物・形見取り付け



破魔弓・破魔矢取り付け

が本式であります。

そして棟梁が柱に向かい、身曾貴大祓いをして、二拝二拍手一拝をし、振り幣を翳しながら、「一切成就 破い給え清め給え」と唱えます。

さらに棟梁が扇子を手に持って、寿ぎ唄を二度繰り返します。「動きなき 下津磐根に真木柱 永遠に寿ぐ 常盤堅盤に」と唄いを入れ、改めて二拝二拍手一拝で、龍柱の儀式は終了いたします。

◆ 破魔矢の儀

次に、本式には、特に大規模な儀式においては、破魔矢の儀を行うべきであり、これについてご説明いたします。



破魔矢の儀

あらかじめ机に本物の破魔弓を用意し、破魔矢は神社で年最初に使う先が丸くなっている安全な祝いの矢を使います。私共の大和流では、破魔矢の儀は伏龍式の結びのメイン儀式として、鬼門除けをさせて頂いております。

本来、龍柱は表鬼門、裏鬼門に立てるのが本式ですが、現在では丑寅の間（表鬼門）に一本だけ立てるのがほとんどです。私どもでは、破魔矢の儀については、表鬼門と裏鬼門に破魔矢を放ち、鬼門除けをさせて頂いております。

まずは、棟梁が中心になり、表鬼門の矢を放つ脇棟梁、裏鬼門の矢を放つ主任大工が棟梁から破魔弓破魔矢を受け取り、所定の位置に移動いたします。

そして、棟梁が振り幣を持つ

て、表鬼門よりそれぞれの破魔矢を放つ者を呼び出し気合いを入れます。棟梁が大声で「表鬼門」、破魔矢を放つ者が「ホー」と受け応え、続いて「裏鬼門」、「ホー」、それぞれに「一切成就破い給え清め給え」と祓い、表鬼門と裏鬼門が向かい合い、所定の位置に向かった後、棟梁が「天下泰平、悪魔退散」と扇子を振り翳し、これを合図に二名は阿・吽の呼吸で破魔矢を放ちます。

厳肅でまた荘厳な儀式であります。この破魔矢の儀は、私どもが宮大工古式伝統保存会において文獻に則り再現した儀式です。この儀式を披露いたしますと「初めて拝見いたしました。ありがとうございます」とお礼を言われることが多くあります。

◆ 宮大工の寿ぎ

そして伏龍式の結びに成りますが、これで伏龍式の全ての式典が終わり、お施主様または建築業者代表者の方に前に出て頂き、棟梁他、式典参加の大工さん全員参加のもと、棟梁のみ一步前に出て、



宮大工の寿ぎ

お施主様と合い向かいになります。

お施主様の一つ祝い扇子を持っていただき、まず棟梁からの寿ぎ唄を受けます。

そして棟梁が一声扇子を翳し「千歳楽」、参加の大工「千歳楽」、棟梁「万歳楽」、同じく参加の大工「万歳楽」、そしてお施主様に「土、金」と締めくくって頂いた後、棟梁の発声にて、他の参加者全員で祝い手締めを三本にて行ないます。

これにて伏龍式終了となります。今回は伏龍式の式次第の順に写真にて流れを説明いたします。

総合礼式の龍柱（伏龍式）
まとめ

総合礼式の龍柱、私は伏龍式と称して昔の文献や祖神の教えを参考にし、流れを一つに纏めて参りました。そして30年程前から宮大工古式伝統保存会を立ち上げ、これまで色々な儀式に参加させて頂きました。気付いて見ると、今ではこの儀式を保存しているところは他にはなく、長く継続させていきたいとの願いから掲載をさせて頂いて居ります。参考にして頂ければ幸いです。

◆ アメリカに渡った
伏龍式（龍柱）

第22回から24回までの説明を参考にして頂き、式次第に則り、ご説明申し上げます。

写真1と9は、アメリカで執り行った際の写真です。約25年前の1993年に、米国・アラバマ州・バーミングハム市にてお茶室『燈心庵』を建立するにあたり、日本文化の紹介として伏龍式を執り行いました。写真1の「宮大工入場」で太鼓を叩いておりますのはアラ



通算 第25回
未来に伝えたい
日本建築伝統儀式

田子規矩法大和流六代目 棟梁 田子 和則

バマ日本庭園委員会の会長ダグラス・ムーワ氏です。また、写真9の「宮大工の寿ぎ」は、私と当時のバーミングハム市の市長のリチャード・アリンソン氏です。お茶室に『燈心庵』と命名して下さったのは、京都清水寺の管長松本大園隼下です。

当時のアラバマ州の新聞やテレビに報道され、行政の仕事でもありましたので、私の地元であります当時の群馬県知事や前橋市長さんの親書を携えて建立させて頂きました。建立を機に交流が始まり、5年後にバーミングハム市と前橋

伏龍式（龍柱）式次第

- 一、宮大工入場
 - 二、礎の儀
 - 三、柱立ての儀
 - 四、三玉女星神供物取り付けの儀
 - 五、地曳礼式形見取り付けの儀
 - 六、破魔弓・破魔矢取り付けの儀
 - 七、身曾貴大祓い
 - 八、破魔矢の儀
 - 九、宮大工の寿ぎ
 - 十、祝い手締め
- 終了

市は友好親善都市となり、来年には20周年記念を前橋市で行うこととなりました。

海外で文化的建築物を建立するにあたっては、技術も大切ですが、日本建築伝統儀式も文化交流として欠かせないと感じた次第です。



1. 宮大工入場



2. 礎の儀



5. 地曳礼式形見取り付けの儀



4. 三玉女星神供物取り付けの儀



3. 柱立ての儀



8. 破魔矢の儀



7. 身曾貴大祓い



6. 破魔弓・破魔矢取り付けの儀

今回で伏龍式は終了と致しますが、次回からは私が経験致しました様々の落慶法要についてご紹介させて頂きます。昔から伝わる落慶儀式は、当時木造建築が主流でありまして、現在ではなかなか拝見することが出来ません。



10. 祝い手締め



9. 宮大工の寿ぎ